

5 年	図工	「水から発見！ここきれい～鑑賞～」 2 時間	概 要	学習環境	適 ○
手 立 て	① <環境や道具・材料の工夫> ・水の形や色の特徴をよく捉えられるよう、机に白模造紙を敷き、その上をビニールシートで覆う。 ・色々な形や大きさの透明容器やプラスチック段ボールなどの副材料などを十分に用意する。 ・繊細な色の変化を捉えられるようにスポットを用意する。 ② <導入の工夫> ・見え方の違いを感じとれるよう、導入や活動中に、水を真上から見る、目線を下げ横から見るなどいろいろな方向から見るよう伝えたり、画像を見せたりする。 ③ <造形的な視点で捉えるための工夫> ・「きれい」と感じる形や色を見付けたら、水が美しく見える位置を探してタブレット端末で撮影する。（活動を撮影し、どのように見えるか確認する。撮影した写真をみながら、さらにしてみたいことを考える。写真を共有し友人の活動をヒントにし、さらにしてみたいことを考える。） ④ <教師の声掛けの工夫> ・児童の活動を見て回りながら「水のどんところがきれいだと感じている？」など、「きれいを見付ける」というねらいに沿った声かけをする。 ・水や容器を使って生まれる形や色から「○○みたい」「○○な感じ」など自分なりのイメージをもっている児童のつぶやきに注目し、認める声かけをする。 ⑤ <場の設定・教師の声掛けの工夫> ・友人と自然に交流する活動が生まれやすい環境設定を行い、複数人で協力し合うとよいことを伝える。 ⑥ <互いに鑑賞する場の設定の工夫> ・自分と友人の感じ方の違いを知り、自分の見方や感じ方を深める活動になるように、それ			児 童 の 様 子	① ・いつもと違う机の環境に、早く取り組みたいという意欲や活動への期待が感じられた。 ・透明容器やスポットをつかって自由に試し、何度も取り組むことでやりたい表現を見付けることにつながった。 ② ・目線をかえてさまざまな角度で対象をみることにより、またちがった世界を新鮮に感じることができていた。 ③ ・活動の最中に撮影をすることは、なかなか難しい様子だったが、なかには構図などを工夫して撮影している児童もいた。  ④ ・水遊びのようになってしまう児童はほとんどいなかったが、どのようにやったらいいのかわからずに手が止まってしまう児童もいた。 ⑤ ・個人での活動に集中する児童もいれば友人と協力し合いながら2～3人で活動する姿もみられた。 ⑥ 振り返りの時間をしっかり確保することで、色々な表現の工夫に気がつくことができていた。

	ぞれの見付けた「きれい」を互いに見合う時間と振り返りの時間を設定する。 ・児童が感じたよさや美しさを認める声かけをしたり、全体に共有する。		
成果	・形のない「水」に自分の手を加えることで変化させ、形になっていく様子を楽しむことができていた。また、「何度も試せる」「すぐに結果が出る」という学習環境が、造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだすことに繋がった。	課題	・活動に集中すればするほど撮影するのが難しい様子だった。 ・タブレット端末で撮影し、振り返りの時間をしっかり確保することで、色々な表現の工夫に気がつくことができていた半面、その場で本物の作品を鑑賞するよさもあると思った。その場合、活動の時間を長く確保するため「造形遊び」とし、その場で実際の様子を鑑賞しあう方法も考えられる。

